

此の空から少しだけ  
力が生れ

名流之士，其情志也。

あらうぬき色の風に、  
身をすくめ

卷之三  
老知不足齋  
藏書

七  
三  
十  
九

図③「十七帖」二種卷頭比較



# 「落ち穂拾い記」⑥4

## 【館本十七帖】・②『無塵書屋本・十七帖』

図①「館本十七帖」無塵書屋本



図②「宋拓十七帖」香港中文大学本



宋捐十七帖

無塵書屋本

三井本

無塵書屋本

三井本

図④二種比較



前回紹介した「三井本十七帖」の原帖は、現在でも杳としてその存在は知られていない。ただコロタイプの精巧な白黒の影印が伝えられるのみであり、宋拓孤本として伝承されてきたが、上海の友人の所蔵の「無塵書屋本・十七帖」(図①)が、三井本と同石拓である事を見いだした。「三井本十七帖」は、孤本(天下に一本のみ)ではなく、またその他に香港の中文大学所蔵の嶽雪樓旧藏の「宋拓十七帖」(図②)も同石拓であることなどを、2018年に「墨誌」の雲煙過眼記にて、無塵書屋藏本「王羲之十七帖」として紹介した。翌年の紹興での蘭亭学会においても同様の見解を発表した。

ここでは紙面の都合で、「無塵書屋本・十七帖」と「三井本十七帖」とが同じ石から拓出されたことを示す簡単な部分比較図版を示す。図③は、卷頭の一一行目の比較図版である。両本とも字画は完全に符合する。図④は、全体を詳細に比較対照した図版を作成し、その中から同石であることをしめす顯著な部分を2ヶ所示した。図版④の★印を付した文字の周囲に不用意に付けられた石面のキズが、ともに同じように拓出されている。こうしたことから同石拓であると認定した。『無塵書屋本・十七帖』は、長らく預かり丁寧に観察した。三井本に比してやや拓調は、やや重い。また中文大学所蔵の「宋拓十七帖」は、十数年前に原件を丁寧に調べたことがあり、近年精巧なカラー精印が刊行された。拓調が無塵書屋本と同じくやや重く、長い伝來の過程で拓本が破損したのであるうか、拓面に所処に塗墨加工されたところがあるが、古くから優れた拓本とされてきたが、三井本や無塵書屋本と同石拓であった。今回、右頁の主圖版は、無塵書屋本の「省別帖」(「遠宦帖」ともいう)を示した。

# 書のひろば

理事長 下谷洋子

(公社)全日本書道連盟  
第191回理事会開催

3月8日、上野精養軒にて今年度最後の理事会が開かれました。

主な議事内容

書写・書道教育推進協議会ならびに日本書道ユネスコ登録推進協議会の活動報告

令和6年度書道講演会の報告

令和6年度助けあい募金の報告

令和7年度事業計画案、収支予算案資金調達及び設備投資の見込みについて

約款の一部変更について

任期満了に伴う役員(理事・監事)改選について(6月5日任期満了)

令和7年度総会・令和7年度書道教育講演会について(6月5日)

令和7年度夏期書道大学講座について(8月1日～3日)

1の議案に関しては補足資料があり、文化庁からの令和6年度におけるユネスコ無形文化遺産への提案候補の選定についての報道発表の内容が、報告されました。「書道」の提案に係る今後の予定は次の通りです。

令和7年3月  
令和7年3月  
無形文化遺産保護条約関係省庁連絡会議において審議

〃7年3月末まで  
ユネスコに提案書を提出

〃7年10月～11月頃  
政府間委員会において審議決定

評価機関による勧告

〃7年11月～12月頃

全日本書道連盟・全国美術振興会・日本書道芸院・日本書道ユネスコ登録推進協議会・書写・書道教育推進協議会・全国書道用品生産連盟

日本書道芸院・日本書道ユネスコ登録推進協議会・書写・書道教育推進協議会・

日本書道連盟・全国美術振興会・

日本書道芸院・日本書道ユネスコ登録推進協議会・書写・書道教育推進協議会・

3)重要な使用人の選任及び解任について  
4)役員等の報酬等に関する規則の一  
部変更について

内(関西、中国、四国、北陸各地区)  
名譽会員、参与会員、審査会員他  
(公財)全国美術振興会が運営する  
書家の作品が会派を超えて一堂に観覽  
出来ます。(本院関係出品者)

## 第53回「日本の書展」開催

「日本の書展」は、現代書壇を代表する

東京展5／27～6／1 福岡市美術館及  
5／28～6／1 福岡県立美術館  
下谷洋子・小竹石雲・辻元大雲・  
小林琴水・大辻多希子・種谷萬城・  
田村鄭雲・半田藤扇  
崎掃雪

九州展5／6～8 マイドームおおさか  
小林琴水・稻垣小燕・大平邑峰・  
川島舟錦・名越蒼竹・前田龍雲・山

5)創立記念日の講演会講師について  
報告事項

1)新会員について  
2)書道芸術院第76回毎日書道展出品  
者懇親会について  
3)書道芸術院教則本の経過について  
4)代理理事、業務執行理事の職務の  
執行状況の報告

東京展6／12～22 国立新美術館  
下谷洋子・小竹石雲・辻元大雲・  
小林琴水・大辻多希子・種谷萬城・  
田村鄭雲・半田藤扇  
崎掃雪

5)創立記念日の講演会講師について  
報告事項

1)新会員について  
2)書道芸術院第76回毎日書道展出品  
者懇親会について  
3)書道芸術院教則本の経過について  
4)代理理事、業務執行理事の職務の  
執行状況の報告

東京展6／12～22 国立新美術館  
下谷洋子・小竹石雲・辻元大雲・  
小林琴水・大辻多希子・種谷萬城・  
田村鄭雲・半田藤扇  
崎掃雪

5)創立記念日の講演会講師について  
報告事項

1)新会員について  
2)書道芸術院第76回毎日書道展出品  
者懇親会について  
3)書道芸術院教則本の経過について  
4)代理理事、業務執行理事の職務の  
執行状況の報告

東京展6／12～22 国立新美術館  
下谷洋子・小竹石雲・辻元大雲・  
小林琴水・大辻多希子・種谷萬城・  
田村鄭雲・半田藤扇  
崎掃雪

5)創立記念日の講演会講師について  
報告事項

1)新会員について  
2)書道芸術院第76回毎日書道展出品  
者懇親会について  
3)書道芸術院教則本の経過について  
4)代理理事、業務執行理事の職務の  
執行状況の報告

東京展6／12～22 国立新美術館  
下谷洋子・小竹石雲・辻元大雲・  
小林琴水・大辻多希子・種谷萬城・  
田村鄭雲・半田藤扇  
崎掃雪

5)創立記念日の講演会講師について  
報告事項

1)新会員について  
2)書道芸術院第76回毎日書道展出品  
者懇親会について  
3)書道芸術院教則本の経過について  
4)代理理事、業務執行理事の職務の  
執行状況の報告

東京展6／12～22 国立新美術館  
下谷洋子・小竹石雲・辻元大雲・  
小林琴水・大辻多希子・種谷萬城・  
田村鄭雲・半田藤扇  
崎掃雪

5)創立記念日の講演会講師について  
報告事項

1)新会員について  
2)書道芸術院第76回毎日書道展出品  
者懇親会について  
3)書道芸術院教則本の経過について  
4)代理理事、業務執行理事の職務の  
執行状況の報告

東京展6／12～22 国立新美術館  
下谷洋子・小竹石雲・辻元大雲・  
小林琴水・大辻多希子・種谷萬城・  
田村鄭雲・半田藤扇  
崎掃雪

5)創立記念日の講演会講師について  
報告事項

1)新会員について  
2)書道芸術院第76回毎日書道展出品  
者懇親会について  
3)書道芸術院教則本の経過について  
4)代理理事、業務執行理事の職務の  
執行状況の報告

## 漢字書基礎基本講座(11)

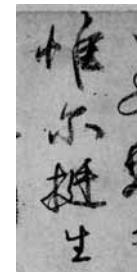
種谷萬城

## 篆刻・刻字基礎基本講座(11)

後藤大峰

祭姪文稿「惟尔挺生」

行書3 祭姪文稿



祭姪文稿の臨書  
「惟尔挺生」

顔真卿(709~785年)は、唐の四大家の一人。王羲之の流れを引いた在来の書に新生面を切り開いた革新書派の祖。唐王朝における無二の忠臣としても史上名高い。顔真卿とともに、安禄山の乱に挙兵し抗戦した従兄弟の顔杲卿とその子・顔季明は、安禄山に捕らえられ慘死した。祭姪文稿は若くして非業の死を遂げた顔季明を悼んだ弔文の草稿。顔真卿の悲しみと憤りの激情に溢れた卒意の書で、筆圧が強く、書き進めるうちに感情が昂り、推敲の後も生きしい。劇跡中の劇跡と評される名品。唐・乾元元年(758)顔真卿50歳の書。麻紙に墨書の肉筆巻子本が台湾故宮博物院に現存。毎日書道展の「毎」字は祭姪文稿中の書。争座位文稿、祭伯文稿と合わせて顔真卿の三稿と称す。



祭姪文稿「毎」字



祭姪文稿の倣書  
「激情」

※ユーチュープ「筆のサロン」に  
臨書と倣書の関連動画を配信し  
ました。是非参考にして下さい。  
QRコードでアクセスできます。



筆のサロン  
QRコード



祭姪文稿「毎」字



祭姪文稿「惟尔挺生」

## 篆刻・刻字基礎基本講座(11)

後藤大峰

前回、印泥について、お話し致しました。以前、同じ様なことを、とある所で、お話をさせて頂いた際、こんな質問を受けました。

「冬季の温度が低いとき、印を捺すのが夏の時より、捺しにくいのですが、何か、いい方法はありませんか?」

これは篆刻に携る者だけでなく、作品に落款印を捺す多くの皆様が身に覚えのあることではないでしょうか?

冬季の温度の低い時、印泥はもちろん、冷えております。印材自身も冷えております。

これを効率良く印影に捺すには、印泥を温めることが大切です。

印泥はもちろんですが、印材も温めるのを、お勧め致します。

印泥、印材を暖房器具などで充分に温め捺してみて下さい。効率良く捺せると思います。

特に、書道芸術院展の作品制作は、まさに冬季の寒い時期です。どうぞ参考にしてみて下さい。

反対に夏季の暑いときは印泥がベタついて、これまた、厄介な時期です。この時期は冬季と反対に、冷蔵庫等で印泥を冷やします。これで必要以上の印泥が印材に付かなくなり、寒い時ほどではあります。

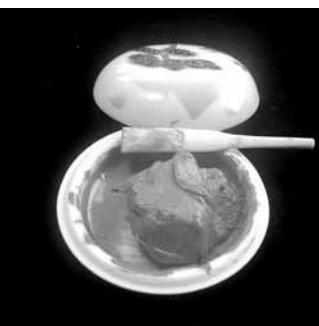
人が、これで効率的に捺せると思います。

朱色系印泥

今回は、冬期間、夏期間の印影を捺す際の印泥、印材の扱い方で終

始しました。

次回は篆刻の解説の最終回、他の用具についてお話を致します。その後は、刻字についてお話を進めて行きます。



# 書道芸術院

## 令和の群像 (2025)

第6回みちのくの書人達展「大木惇夫の詩より」



鈴木英晴書

### 書の楽しさ



鈴木英晴

職場で書類を提出しようとして用紙の入った引き出しを開けても原本しかない。私もらいしか手書きする人はいないのだそうだ。パソコンでの書類作成が当たり前時代になり、私のような人間は希少価値になってしまった。年賀状や暑中見舞いですら活字になり、手書き文字は見られない。でも、手書きの楽しさは譲れない。

書道を始めて半世紀が過ぎた。やめようと思った時もあったが、続けることができたのは多くの先生方や書友がいたから。かけがえのない私の宝物である。筆を持つ時、いつもみんなの顔が思い浮かぶ。

学生時代にお世話になった渋谷清先生には実用書を学び、かなの世界に誘ってくれた。就職して氣仙沼に赴き、小野寺逢仙先生の門をたたくと、実用書・少字書のかな・現代詩文書と幅広く書道の世界へ導いてくださいました。そして坂本素雪先生には作品制作のあり方や書道の可能性を教えていただいた。そこにはいつも自分のことのように作品を批評してくれる多くの友がいて、本当にうれしかった。そこで私は初めて出会うような新鮮な気持ちで向き合うことができた。

日本では平安時代にからの文化が栄える源氏物語の著者である紫式部も当時のかなについて「いと際なくなりたる」と書いている（実際には式部の没後に多くの名品が出ている）ほどで、千年もの昔にこれほどこの芸術が花開いたとは驚きであり、芸術文化の高さを今に伝えている。中国の明代・清代の書とともに構成や運筆のリズム・潤渴・墨色の変化・表装の仕方など、作品制作上参考になる点が、もれなく詰め込まれている。

よく臨書を作品制作にどう生かすかといふ議論が行われるが、古典は作品制作の構想や発想の宝庫であり、その書法・書風を身に付けることによって、作品に幅ができるばかりでなく、品格も生まれる。臨書はその下積み、避けては通れないものといえるだろう。

今日も朝夕、筆を持ち、古典の臨書にいそしむ。私の至福のひとときである。

る。作品は先生や書友たちとともに作られていく。現代の書作品を追求し、議論を交えながら。単なる意思疎通の手段から発展し、見る人の心を動かす作品を作ることこそが、現代書としての書道の存在意義となつていいのではないか。

とはいっても、そのような書作品を作ることはできるはずがない。これまで導いてくださった先人の先生方の教えがあつたからこそのことである。

中学生になって一般部に編入された時から、毎月の競書で甲骨文や金文などの古代文字から唐代に至るまでの隸書や楷行草の臨書を取り組み、漢字の骨格や書法について学んだ。知識や技術が伴うにつれて、少しずつ認識が増し、法帖の見方も変わり、同じものであっても初めて出会うような新鮮な気持ちで向き合うことができた。

日本では平安時代にからの文化が栄える。源氏物語の著者である紫式部も当時のかなについて「いと際なくなりたる」と書いている（実際には式部の没後に多くの名品が出ている）ほどで、千年もの昔にこれほどこの芸術が花開いたとは驚きであり、芸術文化の高さを今に伝えている。中国の明代・清代の書とともに構成や運筆のリズム・潤渴・墨色の変化・表装の仕方など、作品制作上参考になる点が、もれなく詰め込まれている。

よく臨書を作品制作にどう生かすかといふ議論が行われるが、古典は作品制作の構想や発想の宝庫であり、その書法・書風を身に付けることによって、作品に幅ができるばかりでなく、品格も生まれる。臨書はその下積み、避けては通れないものといえるだろう。

今日も朝夕、筆を持ち、古典の臨書にいそしむ。私の至福のひとときである。

# 書道芸術院

## 令和の群像 (2025)

第74回毎日書道展「歓」

山岡 扶佐書



「好きで始めたのが机嫌よく、マイペースで学べればいいと思っていました。父は何も言わず見していました。他の受講生と同じように、毎週の課題を提出すれば短評を書いた宿題が返ってきました。読み難い短評の字が次第に読めるようになり、短評に一喜一憂する自分がいました。条幅にまとめる課題もあり、受講生全員が一見できるよう張り出し、各々の評を師より聞き、共有しました。誰に対しても苦言は言はず、良い所はよいと褒める父でした。

受講当初は、一から始めるのだから機嫌よく、マイペースで学べればいいと思っていました。父は何も言わずに見ていました。他の受講生と同じように、毎週の課題を提出すれば短評を書いた宿題が返ってきました。読み難い短評の字が次第に読めるようになり、短評に一喜一憂する自分がいました。条幅にまとめる課題もあり、受講生全員が一見できるよう張り出し、各々の評を師より聞き、共有しました。誰に対しても苦言は言はず、良い所はよいと褒め

20歳代より書を始め、はや40年が経ちました。不器用な私が、よくやめずに続いていると驚いています。40年前、春洋会には同年代の方は勿論、主婦でもある諸先生方がたくさんいらっしゃいました。

「好きな古典を見つければ、各自がさらに深く勉強をすればよい」とのことから、1ヶ月3回、一つの古典の筆遣いを習い、3年を区切りとし、沢山ある古典の一部を垣間見ていました。

### 「父、曰く」



山岡 扶佐

いました。皆、いつもはつらつと、楽しもうに作品づくりや勉強をされていました。

その頃、会では「書道基礎講座」の時間があり、私はとても安易な気持ちで受講しました。父・恩地春洋から書を学ぶことになりました。

小学生の時に筆を持つただけの私は、何もわからんまま、キャリアのある諸先生方と机を並べたのでした。

「好きな古典を見つければ、各自がさらに深く勉強をすればよい」とのことから、1ヶ月3回、一つの古典の筆遣いを習い、3年を区切りとし、沢山ある古典の一部を垣間見ていました。

父曰く、人は顔立ちが皆違うように各自

の習得能力は同じではない。他を見て急がなくともよい。時間はある。書く時間がないなら、寝ずに書けばいい。それも叶わなければ、元気で長生きをしてやめずに続けねばよい。そのうち技術も手に入る。情熱を筆先にまで伝えた作品も、作れるようになる。永年、生徒の成長を見守ってきた父は、皆の作品がどのように変化していくかが楽しみであり、それを見届けられないことが非常に残念だと、言っていました。私は「機嫌よく書いていたらしいかな」と苦笑い。沢山の仲間とともに切磋琢磨していただたら、切に願うばかりです。

「隸書に合わせた名前がいい」「伸びやかに書けた」「この強い線は、あなたの持味です。これからも大切にしなさい」「Iさんは書譜を勉強して作品が変わってきた」と話し、「筆遣いを臨書で学び手に入れなさい。誰かに盗られるものではないから」と、臨書の大切さを教えてくれました。

書展の数が多い先生方は、いかに書作しその時間をどのように作っておられるのでしょうか？

作品を書いて添削、助言をいたぐる：繰り返しした後、提出する。助言のひと言も各々違ったものとなる。ある人は、「何も考えずに書いているだろう」と厳しく言い、具体的な助言はない。構成等工夫してみると今度は「頭で考え過ぎる」と言われ頭を悩まされた。こうも言った。「計算通りにきちんと書けて悪くはないが、何かもうひとつ足らない。何かなあ」と。もう少し書けば何か違ってくるのかかもしれない。答は書き手が持っているということでしょう。

# 新銳礼讃



「SKY」



現代詩文書部 審査会員候補  
所属 宮城野書人会  
師名 佐久間玉瑛 (宮城県)  
参加している書展 每日書道展

前衛書部 審査会員候補  
佐藤葵心 (宮城県)  
所属 大拙社  
師名 小野寺三枝  
参加している書展 每日書道展  
河北書道展



「ペテルギウス」

## 作品自評

家族のことを思いながら作った自作の

詩を用いて、現代詩文書作品を書きました。空を渡って日本にやってきた夫と、国際結婚をしたのは、ちょうど7年前です。これまで沢山の思い出を、とともに積み上げてきました。また、愛する子宝に恵まれ、これからも「家族で、ともに泣き、ともに笑って、生きていきたい。」

という思いを込めた作品です。

作品の中央付近に、太字で「SKY」を書き、日本語と外国語との共栄と自由さを生かしながら、4段構成で全体まとめました。また、墨量の置き所、掠れ、線の強弱や太さ細さ等を考慮しながら、自分の思いを筆に託しました。

## 書活動における課題

私が、畜産系獣医師を職業しながら、出産・育児をこなしつつ、書道を続けてきました。育児をこなしつつ、書道を続けるため、家族の理解があつてのことだと思います。これからは、母としての活動も増えて来ますが、ワーキングママが書活動を微力ながらも続けられる道を、模索していきたいです。

今、伝えたいこと

平成30年に無鑑査を卒業して以降、出産・育児が重なり、書活動が停滞気味ですが、それでも、温かい目で見守っていただいている宮城野書人会の諸先生方は、本当に感謝しております。中でも、実母で師でもある、佐久間玉瑛先生には、ママの先輩です。

## 作品自評

前衛書を創作する際、いつも誰かの心に響く線を書きたいという思いで制作しています。様々な古典の臨書で培った線を作品の中で効果的に表現できるよう、いつも模索しています。作品の造形が与

える印象は大きいですが、それ以上に線の強さや多彩な線が作品に与えるインパクトは大きいと考えています。制作過程において、緩急・大小などのリズムを大切にすること、また不均衡の美や余白の美、白と黒のバランスなどについても追求して書きました。

お手本のない自由度の高い分野であるからこそ難しさもありますが、その分自

分の目標す線が表現できた時の喜びは一矢記す。師匠と出会ったのは今から20年前。語の教師になるための付加価値として書道を始めてみようと思い入門しました。それが今では書道教室一本で歩んでいます。師匠との出会いがなかったら、このような人生にはなっていなかっただと思います。人としても書家としても心から尊敬できる師匠に出会えたことが私の人生の財産です。

## 書活動における課題

表現の幅を今以上に広げ、多くの引き出しを持つためにも常に基本に立ち返り、古典の臨書をし続けて自己研鑽に励みたいと思います。

## 書道芸術院春華賞



「山里」

熊谷 翔

かな部  
熊谷 翔

この度、書道芸術院展におきまして春華賞を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年の秋季展の折、師より、「いつもとは違う攻め方の作品を！」という言葉を戴き、以前から考えていた横形式の聯作品を書こうと決めました。

最初こそ楽しく制作に臨んでいたものの、締切が迫るにつれ、思うような作品が書けない状況に焦りと苛立ちばかりが募りました。

「ただ、書くしかない。」

先人の言葉を支えにギリギリまで書き続けました。きっとこれから書道人生もこの繰り返しなのだろうと思います。今回の受賞を糧に、今まで以上に書に邁進していく所存です。今後とも変わらぬ御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 第78回書道芸術院展

&lt;1&gt;

## 書道芸術院大賞



「宮城野の」

菅原 澪花

かな部  
菅原 澪花

この度、伝統を誇る書道芸術院展で栄誉ある大賞を賜り誠に有難うございました。日々の経過とともに大賞の重さが増し、身が引き締まる思いです。ひとえに下谷先生のご指導と芸術院の先生方、宮城野書人会の先生方、書友の皆様のお陰と心より厚く御礼申し上げます。

令和になり自由な時間が持てる環境の中でかなを基本から学びたいと下谷先生の門を叩きました。喜び悲しみ言葉にできない思いを凝縮した和歌の豊かな世界を表わすかなを学びたい、これが一因となりました。今回は万葉がなを選び古のよみ人の心情に想いを馳せながら筆を進めました。書くほどに難しく学ぶほどに奥深い。目指す書の道は深く遠くと続いております。受賞の重さを忘れず初心に戻り新たな第一歩を踏み出す決意です。今後とも宜しくご指導お願い申し上げます。

書道芸術院準大賞



「蒼峯」



「春の楽器」



「伽羅焚て」



「わがやどの」

藤野 江雪

「唐詩 翻音選」上人



「意在東山日暮琴棋酒色大郎已  
斷去未復靜。萬葉山庵集  
月夜寧知處年老後雪林吟詩」

白雪紅梅賞



「水平線で」

阿部 玲雅

暮景

斜角言葉景に人跡聖なる  
往々未接未聞鐘の月起漁火浦  
煙雨の國の宵の行路裏に

猪原 美風



「Aithy k」

工藤 史音

「紫薇花」

岡本 通子

胸一空む  
悲しくてやりきれない  
白雲は流れ流れて  
今日もまたまた  
やがてゆく  
悲しき迷いと  
よきめぐれ  
この想いはまだ  
數えられない  
苦の海

小幡 華恵

「悲しくてやりきれない」

白雪紅梅賞



田中 岳舟



下津 舟楓



中嶋佐緒里



山崎 琳佳



藤崎 松月

〈第77回展で選抜（春華賞・春華賞候補）された大作コーナー〉



「水瀑」

235×355cm



「悲」

362×242cm



「松の葉」

240×360cm

特別研究部臨書課題

漢字研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

真草千字文①（智永）

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨（押印のみも可）

〈解説〉王羲之の7世の子孫である智永は、吳興の永欣寺で僧として活動した。書法に通じ楷書と草書で、千字文を800本、書き上げ、諸寺に分配したという。その中のひとつが日本に伝來した。これを小川本（以前は谷氏本とも）と称する。他に刻本として北宋時代の

関中本、明末の宝墨軒本がある。今回は小川本を用いるが、真跡説と偽摹説の両方があるので留意したい。今回の課題は、次のいずれかの形で提出されたい。  
①楷書のみを臨書 ②草書のみを臨書  
③楷書とそれに対応する草書を臨書

当該古典の左記掲載部分以外も可。

忠則盡命臨深履薄  
志乃毛毛而於涼後為  
風興溫清似蘭斯馨  
風無泥濘清以榮於馨

忠則盡命。臨深履薄。(奇數行は楷書、偶數行は草書。以下同じ)夙興溫清。似蘭斯馨。

※掲載図版原寸、ただし行立てについては変更しています。

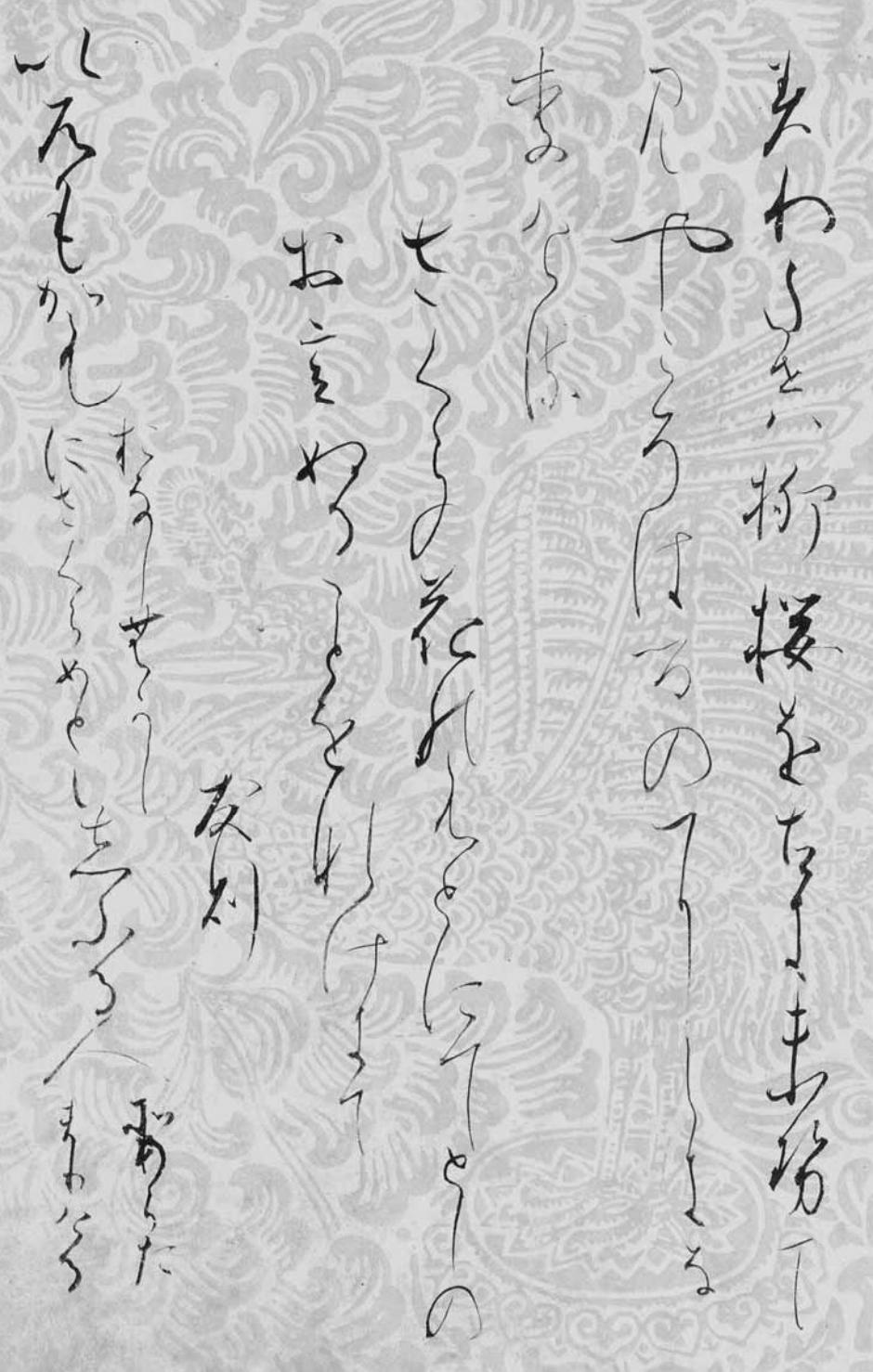
元永本古今集  
(伝源俊頬筆)

①

〈解説〉 「元永本古今集」は現存最古(120年)の完本であり、古今集のはとんど全ての歌と仮名序が書写されている点で大きな価値を持つ。古来、筆者は源俊頬とされてきたが、世尊寺流第4代の藤原定実である可能性が高い。上下2冊の冊子本であり、和製の料紙を綴葉装で綴じてある。江戸時代の初めに

加賀の前田家に伝来し、その後、明治になって三井家の蔵するところとなつた。現在は、東京国立博物館に寄贈され、時折、展示されている。

細身で少し縦長の文字が美麗な料紙と混然一体となつて、見開きごとに多様な王朝美の世界を開いてくれる。まさに和様書の極致と言えよう。(編集部)



(東京国立博物館蔵)

※掲載図版原寸

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましょう。

かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

特別研究部臨書課題

- A. 大作の部=毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可  
 B. 小品の部=半切½以上、半切以内(縦横自由)  
 <いずれも上記の掲載以外も可。>

小竹石雲

養神保壽

(五經通義)

(神を養い寿を保つ)

心を静養すれば寿命を長く保つことができる。



書体=自由



参考

伸びやかな運筆を心がけて、字形は概ね縦長にし、颯爽とした雰囲気をイメージして筆を執った。太細、緩急の変化を用いて生彩のある表現に努めた。文字の大小の変化を対角線上に配し、紙面に工夫を凝らした。各々の文字で主軸となる縦画で屹立した存在感を意識した。筆は羊毛長鋒を使用。左の参考作は、逆に重厚さを狙ってみた。

養神保壽 よみ(神を養い寿を保つ)

習い方解説 (1)

坂本素雪

春酒介壽

(詩経)  
（春酒寿を介いにす）

春酒介壽  
（春酒寿を介いにす）  
春のお酒を飲んで寿命をながくする。

今回、担当は4月から6月までの3回なので、春の季節を課題に

した。楷書は学習指導要領に基いた書体にするか、古典の中からの

倣書にするか悩んだ末、品格のある美しい字形を求め、自由に楽し

く書いてみた。筆は羊毛に狸の混ざったもので、墨は少し濃い目。墨は少し濃い目。

「春」：陽気な春の感じにと4画目を長くしてみた。この時、5画目を強くしてバランスを崩さないようにすることが重要。

「酒」：旁の酉は、左右の縦画を下方広めにして安定させる。

「介」：1画目と2画目は太くす

る。

「壽」：4画目の中心線と7画目の横画を強くし、どっしりとした

字形にする。

色々考えると楽しいが、つい調子に乗り軽い作品にならないように、要注意。品格は古典臨書から学ぶべし。

## 習い方解説 (1)

平川峰子

あま  
天の原ふりさけ見れば春日なる  
みかさ  
三笠の山に出でし月かも

大空をはるかに見渡してみると月  
が見える。あの月は故郷の春日に  
ある三笠山に出た月と同じだなあ。

今回の散らしの構成は、思いきつ  
て後半2行を上部に書いてみました。

に余白を作るか考えて構成を決めました。字粒の大きさに変化をつけたい時は変体がな字典で調べたうえで伸ばせる文字に置き換えてみましょう。(例: り、け、に、し)

墨縫ぎは三でしました。墨縫ぎする字をどの位置に書くかというのも考えてください。濃淡の変化をつけることも重要です。

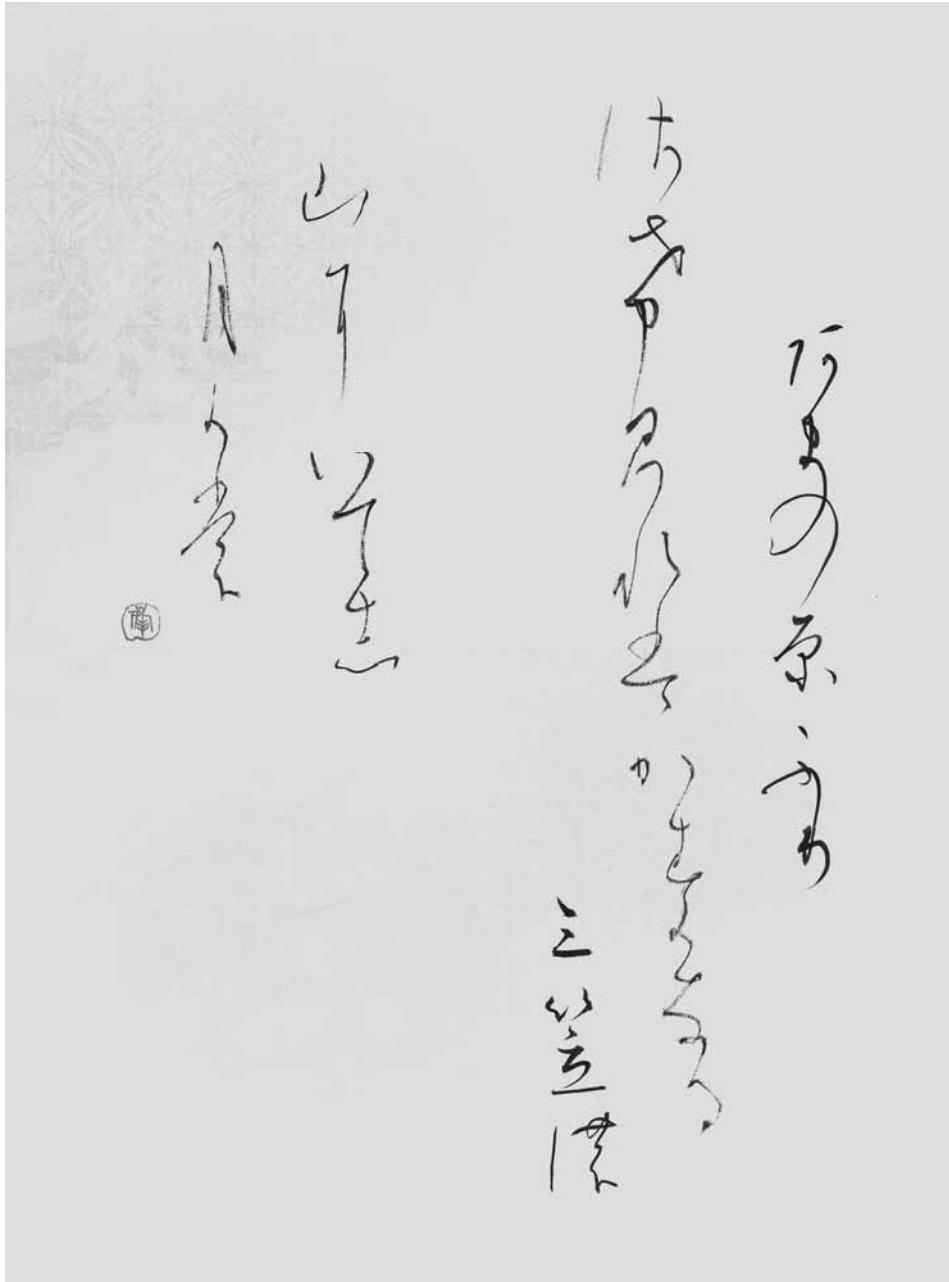
最後に雅印の位置をどこにするか  
考えましょう。

よみ方 天(阿ま)の原ふり(利)さ(佐)け(希)見れば(盤)春日(か春可)な(奈)る

天(阿ま)の原より(利)お(佐)け(希)見れば(盤)春日  
三笠の(濃)山に(耳)出(い)でし(志)月か(可)も(裳)

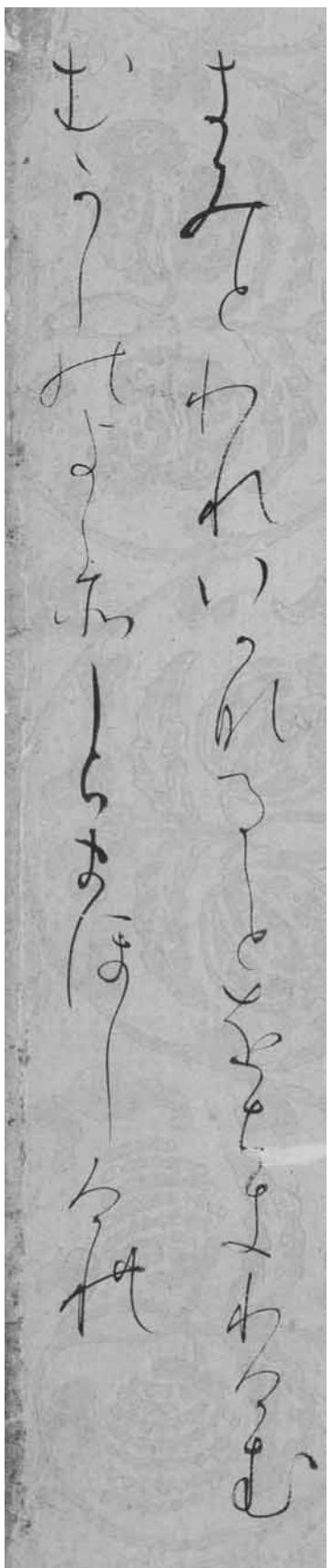
創作

\*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。半懷紙は上記のサイズに切って下さい。



かな規定 秀級以下【5月15日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を臨書する。部分臨書も可。〈注〉署名は「〇〇臨」。粘葉本和漢朗詠集(掲載写真拡大120%)



よみ方 きみとわれいかなることをちぎりけむ  
むかしのよこそしらまほしけれ

歌意 あなたと私がこのように親しく交際しているのは、前世でどんな契りを交わしていたからでしょうか。その内容をぜひ知りたいのです。

かな条幅規定【5月15日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

須田清子選書

習い方解説 (1)

須田清子

春の水はるのすい君きみに馴なれたる心こころとも  
わが思おもひとも見みゆる夕ゆふぐれ

(与謝野晶子)



よみ方 春の水(三徒)君(支み)に(一)馴(那)れ(連)たる心(こゝろ)とも(母)  
わが(可)思ひと(登)も見ゆる夕(久)れ(連)

\*タテ形式に限る

創作

春の暖かさと、自分の胸の内の  
想いとを関連づけた歌かと思いま  
す。最初の春の字は少し小さめに  
書き出し、墨縫ぎは後半の見(み  
でしました。なるべく連綿のリズ  
ムが同じにならないように、工夫  
することが大切です。

漢字条幅規定 初段以上 [5月15日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

半田 藤 扇選書

## 習い方解説 (1)

半田 藤 扇



書体=自由

文意は、春の日に門を閉ざして月が明るい夜は、ひとり梅花とともに寝るのである。そんなのどんな気持ちになり、書き進んでみました。(閉・門)(月・明)と似た文字があるので、造形に変化をつけてみましょう。また、(伴・月)は、たて長に表現すると、全体のバランスが良いと思います。筆は、オロンピーを使用。

\*タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下 [5月15日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

西川翠嵐選書

## 習い方解説 (1)

西川 翠 嵐

今回は、楷書で14文字としてみました。詩文は唐の詩人李白の有名な七絶の前半部分です。

峨眉山月半輪秋 影入平羌江水流  
(峨眉山月半輪の秋 影は平羌江の水に入りて流る)  
(李白)



書体=自由

い。 紙から離すまで丁寧に書いて下さい。 左右のはらいは先にいくほど ゆったりと。ハネやはらいも筆を 明るくスッキリとまとめてみました。起筆・終筆に意を配り、点画が接するか接しないかもよく観察し、左右のはらいは先にいくほど

習い方解説 (1)

小林琴水

おもてなしの大和言葉の一例

日本人は、「おもてなしの心」を  
もつ国民だといわれています。

おもてなしの心とは相手を思い、  
やる。大和言葉には、そつーた  
日本古来のおもてなしの心が息  
づいています。

琴水書

お足元(足元) ごゆるり(ゆっくり)  
おみ足(足) 心置きなく(遠慮せず)  
嬉しく(嬉しく)  
腕によりをかける(一所懸命)  
お口汚し(つまらないもの)  
箸休め(つまみもの) お持たせ(おみやげ)  
お暇(帰る) おすそ分け(余りもの)  
お骨折り(こ尽力)

日常、私達はやんわりと使用している言葉です。

日本人は、「おもてなしの心」を  
もつ国民だといわれています。  
おもてなしの心とは相手を思  
やる心。大和言葉には、そつーた  
日本古来のおもてなしの心が息  
づいています。 ○○書

書体=自由

△用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用  
△黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守って下さい。

□注意!!

春奈様 ご入学おめでた  
日々頑張る姿が、  
両親のお喜びが目に浮かびます  
充実した学校生活が送れるよう、  
願っております

小竹石雲

春奈様 ご入学おめでとう／日々の努力が実を結びましたね／  
ご両親のお喜びが目に浮かびます／充実した学校生活が送れるように／願っております／氏名

書体＝自由

(掲載手本85%に縮小)

- ◇ 小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓名(号)を
- ◇ 用紙は普通版半紙横1/2(24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇ 所定の出品券を作品の右下に貼る

# 今月のホープ作品。各部総評

NO.766

かな部 師範 廣瀬 幸枝

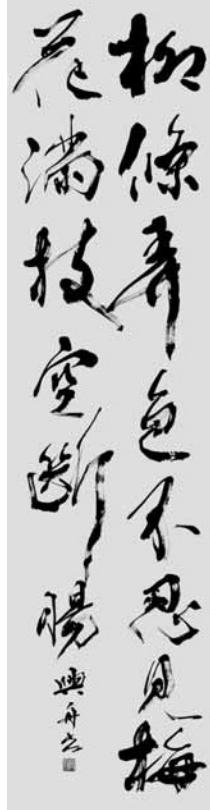
掲載手本を理解して、紙面へのバランスもよく潤滑も美しい。円やかなりリズムを得て温雅な趣。

◎かな部総評 書きやすい手本だつたためか、総じて佳作が多かった。常々記しているが、線が細い、字が小さいは論外です。（洋子評）



かな条幅部 準師範 中里 智香

散らし構成を基に文字の大小の組み合わせ、潤滑の変化、行の流れのリズム感、全てに魅力的な作品です。

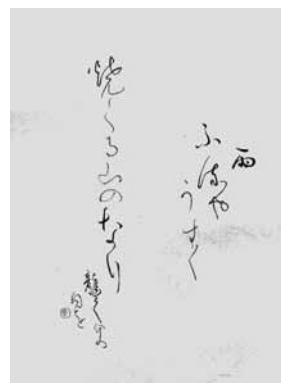


◎かな条幅部総評 渴筆部が多く、作品は潤滑の変化の美しさが重要です。字典で文字の確認を。（峰子評）

漢字条幅部 師範 江本 興舟

縦横無尽に動いた筆線が巧みに太細の変化を交えて運筆され圧巻。気迫が充満し見応えのある作。

◎漢字条幅部総評 紙面を掌握しての動き、流れが大切。文字の過大過少のため作品効果があがらないものが目に付いた。（石雲評）



漢字部 師範 新井 春麗  
柔らかく、穏やかな線で淑やかな行草作品。落款も一貫。品性の高さが頼れる完成度の高い熟達の作。

◎漢字部総評 上級は行草書作品に佳作が多かった。線質の良否に評価が分かれる。日頃の古典学習の成果が問われる。（萬城評）



前衛書部 特選 石闇 春月  
四方に伸展する濃渴線が紙面を爽やかに收め、春の訪れを感じさせる明快で魅力ある作品。

◎前衛書部総評 用具、用材に変化ある意欲作多く異なるチャレンジを予感しました。（慧香評）

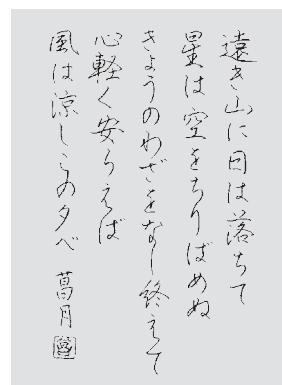


ペン字部 師範 渡辺 萌月  
温雅で丁寧な書きぶり。素朴で力まず自然体の中にこの詩の世界が広がっている。心惹かれる作品に下がっている作品が散見して残念。事前に鉛筆で薄く行頭に線を引く等ひと工夫をしましょう。（季子評）



現代詩文書部 特選 板橋 雅邦  
太細の線の変化と、紙面の中央から右に流れる文字配置が空間を見事に使って明快な作となった。

◎現代詩文書部総評 作品制作では楽しみながら書く、継続するということが大切です。（掃雪評）

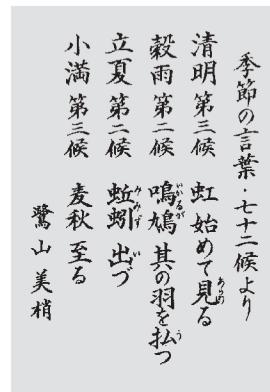
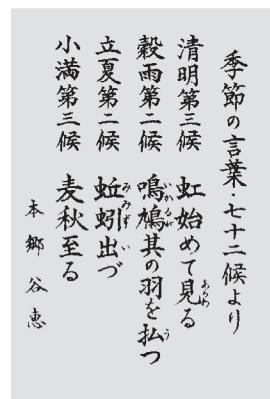


# 実用書優秀作品

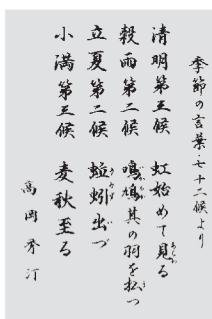
選評 佐藤希雲

## ◎実用書部総評

評価の観点は3つです。  
 ①字形 ②配置（字間・行間など）  
 ③全体の統一感  
 上手な作ほど1か所のミスで③が著しく下  
 がります。ご注意ください。  
 （希雲評）



今月の注目作  
 高岡秀汀



筆の穂先がよく利いて線が強い。  
 転折の処理が確実で、楷書の範。

深正四高立竹原佳	大華真精白扇	水若芳蘭秀苑誠和塾	紅雲仙藻葉茎	水玉瑠璃也	大雲香雲	もく	特選
小加奥岩猪池天野	渡柳廣木工木落今永	石崎伊澤	相澤矢部	中野柳山	本郷鷺山	香雲	
林瀬明上股田	渡瀬戸岡藤村合	永	柳相	柳	柳	美梢	
圭子夏流	妙秀房敏咲甘雨	香	敷教子	明香苑	香苑	惠谷	
日麗都白俊慧	華妙岐汀翠苑咲子	香雨	穎子	穎子	穎子	穎子	
玉流子	洋綾春英照直幹良龍啓白瑠						
祥陽華州	大波川街土氣	八街松平街	八龜春竹美汀瑠	上うる	和上	深上	常盤
熊喜井多志	角張幡川野竹口	大井伊井上藤田	飯虻上藍澤	利上	利上	深大	書游
宏子子	芳華白洋蘭蕙	紅綾春英照直	幹良龍啓白瑠	千耕雲	千耕雲	たか	
(選外)	福島外	八八八八	八や柳八書芳紅堺福江立や千葉	千葉	千葉	たか	
381名氏	三三三三	三浦前本弘橋二新永中利德	中守鶴千田竹千本	千田竹	千本竹	佐藤佐佐	
名略	三浦前本弘橋二新永中利德	中守鶴千田竹千本	千田竹	千本竹	千本竹	佐藤佐佐	
		中守鶴千田竹千本	千田竹	千本竹	千本竹	佐藤佐佐	
		由佳裕嘉白哲叙	白哲叙	白哲	白哲	佐藤佐佐	
		理子美香子舟子	美香子舟子	美香子舟子	美香子舟子	佐藤佐佐	
		雪子右子扇奈	雪子右子扇奈	雪子右子扇奈	雪子右子扇奈	佐藤佐佐	

前衛書部(特選)

## 現 代 詩 文 書 部 (特選)



美一水初成艸真華八重枝子舟利子苑仙江美紀琴

濃渴線と曲線の融合が妙  
リズムある潤渴線が軽妙  
巧みな墨色の創出に成功  
構成力旺盛でセンス漲る  
自在感豊かな温和の表現  
叙情的な滲みの世界空入  
紙面を舞う造形力見事  
用具の工夫で線も洒落  
味わい深い造形が新鮮

選評三森慧香

美 悠  
仙 光 線の抑揚で作品に存在感  
川の一筆目の大胆さ良  
千 恵 子 滋味ある線で情景浮かぶ  
泰 香 大寒の句意が余白に響く  
織細巧みな文字構成佳い

清 華 耀 千 桃 間  
耀 华 千 桃 間  
一貫した筆遣いで明快  
筆遣を生かしリズム良い  
句と構成が美しい作品  
紙面ひし型の構成魅力的  
線の潤渴、文字造型充実

一筆の中に独特な運筆佳  
丁寧な筆致で充実した作  
余白を含んだ文字表情豊か  
空間を切る横線が印象的

花香 喜代美  
翠 溪 煙 奎媛  
墨色が効果的でリズム良  
大字小字が調和して見事  
変化のある線味わい深い

選評山崎掃雪





漢字研究部  
(金文)

選評 稲垣小燕

今月のホープ作品



大友峰



一菊桃香淳蒼  
宏枝子柳子香

藍悦恭雄俊奎  
水子子一雄媛

谷惠明宣一紗  
秀琇子右惠香

琴竹美光佳紅  
燁鳳梢葉子霞

**漢字研究部 特選 大友四峰**  
巧みな用筆から生まれる豊かな線質は、伸びやかで堂々とした雰囲気を醸し出し余裕を感じさせる。原帖をよく観察しリズミカルな息づかいが伝わってくる見事な作です。更なる鍛磨を期待いたします。

◎漢字研究部總評

今回も大雑把な作品が多數見受けられ非常に残念に思います。どの古典も同じですが、金文の場合は特に字形の変化が多様です。故

に筆を執る前にしっかりと把握することが大事です。せめて掲載されている解説、注釈は丁寧に目を通すように心がけてください。臨書にあたっては、まずは文字造形を把握し、用筆法を学んで書くことが第一です。書を学ぶ者にとって何よりも大切なことは古典の臨書です。学書する姿勢を身につけたいものです。

か な 研 究 部  
(寸松庵色紙)

選評 福田令子

今月のホープ作品



新井惠子

**かな研究部 特選 新井 恵子**

寸松庵色紙の特徴の一つでもある、ねばりのある重厚な線と、軽快に動く細身の線との対比が、良く表現された、見事な作品である。

◎かな研究部総評

「散らし」による余白の美しさは、良く観察できていたが、筆の上下動による筆圧の変化が、不足している作品が多く見られた。墨量の変化も注意して欲しい。

かな研究部成績表

# 審査会員の部 結果発表 (出品数 漢字34点・かな10点)

選評 種谷萬城・下谷洋子  
漢字秀逸作



新行内 芳蘭



青木 藤漣

〈次点・  
50音順〉



茂木 純水



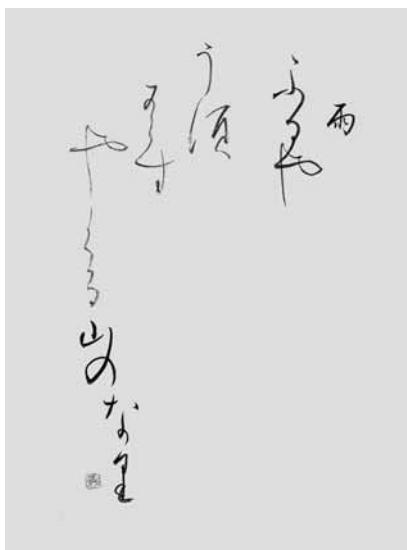
竹浪 叙舟



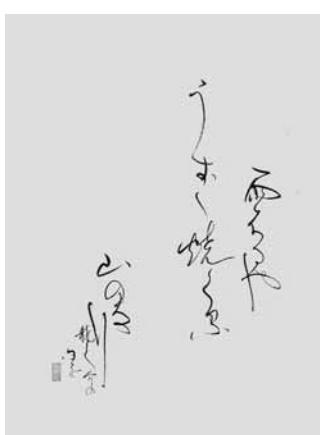
伊澤 香雨

軽妙な筆致の行草書。線は軽やかで柔軟。きめ細やかな心配りが感じられる線の変化が見事。幅広い古典学習の成果が窺える。余白も綺麗で品が良い。  
(萬城評)

かな秀逸作



佐藤 一義



鈴木 英晴



江本 興舟

大胆な余白を意図した斬新な作品。短い行の扱いや、最後の行の字組など一考したいが、墨色も相俟って端正で爽やかな風趣を感じる。行の傾斜も程よい。  
(洋子評)

# 第78回書道芸術院展

〈併催 = 第76回全国学生書道展〉  
〈半紙の部 大賞作品〉



(中) 椿 原 莉 琴



(中) 都 積 乙 花



(小) 弘瀬 美 琴



(高) 旭 舞 桜



(高) 山 崎 暢



(中) 石 田 叶 恋



(中) 宮 地 舞 優

ごあいさつ

公益財団法人書道芸術院 理事長 下谷洋子

ご入賞の皆さん、おめでとうございました。

全国学生展は、昨年節目の記念展となり、本年は76回展として新たなスタートとなりました。70年以上もの長い間の継続により、たくさんの書道愛好者や専門家も誕生しました。SNSやAIの時代ではありますか、手書きの文字にはその人自身が現れて何より血の通った温もりがあります。展示作品を前に先生や仲間と語り合う楽しさもあります。

今回も、全国の幼稚園・小学生から大学生まで、幅広くご応募いただき深く感謝申し上げます。半切二分の一の部がやや増加しましたが、半紙の部とともにしっかりと丁寧に書き込んだ作品ばかりでした。中学生までは学習指導要領に基づきますが、高校生以上になると様々な古典臨書からかなと、多彩な作品も出品できます。当審査員は何日にもわたり厳正な審査に当たりましたが、惜しくも入賞を逃した方々、書道の世界の幅の広さを知り、次回は新たな挑戦を期待します。ご指導の先生方や支えて下さったご家族など全ての方々に深謝申し上げます。

△ 半紙の部 準大賞作品

(高) 龜井美優  
夫靈蹟弗  
成則攀宗  
靡尋 美優臨

(高) 蒲原美月  
天朗氣清

(高) 楠瀬心実  
始像一區

(高) 宮崎芹  
神仙

(大) 安藤穂美  
絶後空前

(中) 永野優佳  
雲外蒼天

(中) 大友優奈  
理想追求

(中) 滝口日菜  
未來への夢

(中) 鈴木愛結  
万物生輝

(中) 中岡桃子  
明媚風光

(小) 新田唯  
あさ

(小) 山本梨華  
草木の芽

(小) 田中菖蒲  
ガラス玉

(中) 江畑侑奈  
宇宙開発

(中) 弘瀬彩乃  
絶空前後

(三年)  
新田唯

(四年)  
山本梨華

(小六)  
田中菖蒲

(中)  
江畑侑奈

(一年)  
弘瀬彩乃

〈半切½の部 大賞作品〉



(高)字根瑞希



(中)岡林らら



(中)新延愛子



(小)大胡美翔

〈半切½の部 準大賞作品〉



(中)中西みなみ



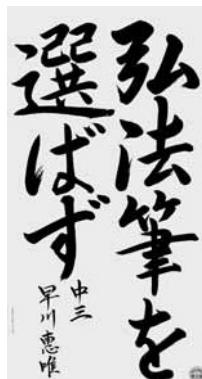
(中)大山由衣



(小)長尾美咲



(中)花輪歩未



(中)早川恵唯



(中)高橋芽依

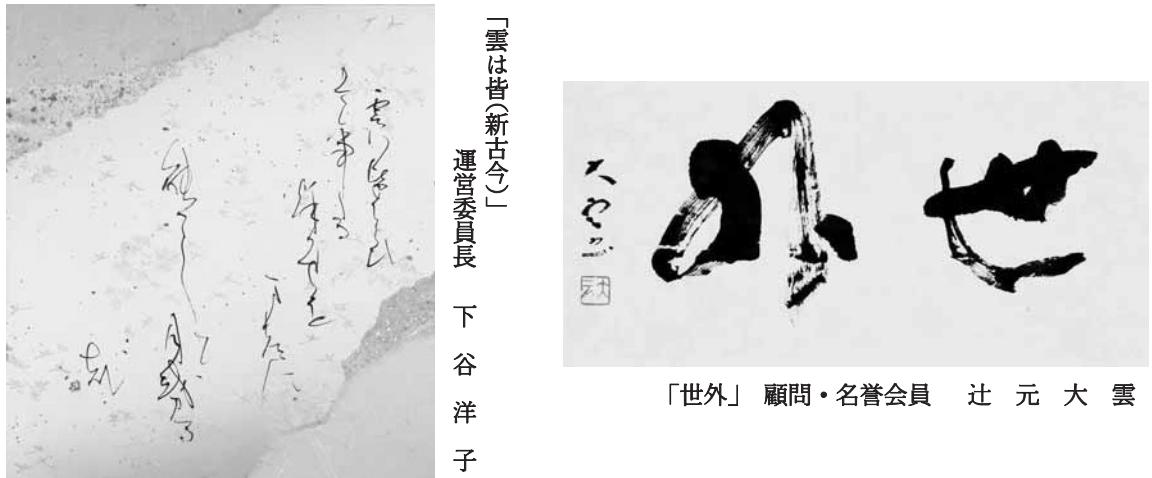


(高)清水環



(高)後藤穂乃花

# 第76回 全国学生書道展 「指導者作品展」役員作品



「世外」顧問・名誉会員 辻元大雲



# 第59回 高野山競書大会案内

併催／第40回日中青少年友好交流競書大会

## 高野山競書大会に出品／協力を

高野山競書大会は本年59回を迎えます。皆さまご存知の通り、高野山書道協会は日本の全書壇を網羅し、弘法大師空海の遺徳を偲び、書道文化の育成奨励を目的として組織されました。本院としましてもこの趣旨に賛同し、例年多くの会員諸氏のご協力を頂いております。本年も多数のご参加を心よりお待ちしております。新しく出品希望の方は、高野山競書大会総本部までお問い合わせください。

### ○ 優秀作品展示

八月一日(金)～八月十七日(日)

会場 高野山 総本山金剛峯寺  
○ 関東地区優秀作品展示

八月二十九日(金)～八月三十一日(日)  
会場 東京・高輪 高野山東京別院

### －学生部規定－

#### 一、資格

幼児・小・中・高校生

半紙(縦書き)

#### 一、用紙

内容自由 一人十点まで

#### 一、課題

団体出品……一点 三五〇円

#### 一、奉賛出品料

個人出品……一点 五〇〇円

#### 一、出品手続

指導者の指示にしたがって提出し、団体登録された書道会(教室)・学校ごとにまとめてます(個人出品は、直接大会総本部宛に作品と出品票を郵送してください。連絡先を明記)

#### ◎ 出品締切日

五月十四日(水) 必着(学生部・一般部共)

## 中国の学童も参加

本大会は、日中青少年友好交流競書大会を併催しており、ここに第四十回を迎える、中国学童の作品もともに審査します。

### ○ 奉納法会

(状況により、変更になる可能性があります)

五月三十日(土) 最終審査日

総本山金剛峯寺で「第五十九回高野山競書大会作品奉納法会」を行い、出品者の書技向上と日本書壇の発展を祈願いたします。全作品は奉納されますので、お返しきません。

### ○ 表彰式

(状況により、変更になる可能性があります)

八月一日(金)の予定 式場 総本山金剛峯寺

(金剛峯寺賞以上の受賞者は高野山で表彰式を行います)

### －一般部規定－ [競書の部・献書の部に分かれる]

#### 競書の部

大学生及び社会人

#### 一、資格

大学生及び社会人

#### 一、用紙・課題

出品手続の規定は学生部と同じ

#### 一、奉賛出品料

団体出品……一点 七〇〇円

#### 一、資格・用紙・課題

出品手続の規定は競書の部と同じ

#### 一、奉賛出品料

競書の部と同じ

- 献書された方には感謝状と記念品を贈呈。

作品・奉賛出品料送付先  
〒648  
0294 和歌山県伊都郡高野町高野山一三一 総本山金剛峯寺内

高野山競書大会総本部  
☎〇七三六(五六)一〇一一(直)

郵便振替〇〇九九〇一〇一三〇九一六  
(名義 高野山書道協会)

主催 高野山 総本山金剛峯寺  
主管 弘法大師  
後援 毎日新聞社・全日本書道連盟  
高野町教育委員会・高野山住職会  
高野山権議会・高野山真言宗参与会

## 事務局だより

2ページの「書のひろば」の記事の中で、事務局長の退任、着任の人事異動をお知らせしました。おふたりのごあいさつを掲載します。

〔退任〕

片岡豪峰

〔新任〕

大内熒軒



唐の詩人、于武陵<sup>うぶりょう</sup>という人の漢詩に作家の井伏鱒二<sup>いぶくじゅんじ</sup>が名訳を付けた「花に嵐のたとえもあるぞ。サヨナラだけが人生だ。」の句は多くの人が一度や二度は聞いたことがあると思います。

その詩を受けて寺山修司<sup>てらやましゅうじ</sup>は「さよならだけが人生ならばまた来る春は何だらう」と書いています。3月は別れの季節であり、新しい出発の季節であります。

9年間、書道芸術院の事務所でお世話になり、書道芸術学生版・書道芸術誌や展覧会など様々な事業に携わるなかで、多くの方々と交流を持たせていただき、感謝いたします。書道芸術誌では競書の審査に長く関わっていました。事務所は離れますが、多くの書の愛好者が楽しく活動できますように祈念いたします。

このたび事務局長を拝命いたしました、大内と申します。

書道芸術院は、長い歴史と多くの足跡を残している書道団体で、5部門、総局支局による多面的地域性を有しており、幅広い会員の集う公益財団です。振り返ると私は約半世紀、競書誌や作品出品など書道芸術院とかかわりをもって今日に至っています。昨年4月に事務局次長として院の行事に参画してまいりました。月例競書誌、単位認定講習会、秋季展、書道芸術院展は、学びと作品発表の場として多くの方が切磋琢磨されております。現在、「文字を書く」という歴史が大きく変わってきたましたが、「筆跡」の重みは大事だと思っております。至らない点もあるかと存じますが、今後ともご指導賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

## 書道芸術誌及び書道芸術学生版購読について

本誌の購読中止を希望される場合には必ず、書道芸術院事務所までご連絡ください。

連絡がないと本誌は3ヶ月間は、そのまま送られていくことになります。誌代が未納入の場合でも扱いは同じです。必ず中止の連絡をお願い致します。

また、中止によって誌代に残金が生じた場合は返金を致します。この場合、返金額が3000円に満たない時は同額分の切手をお送りしております。あわせてご了承ください。

よろしくお願ひいたします。

## 競書出品規定

### ●自由部（段、級によらないもの）

### ●出品資格 高校生以上

\*△印作品審査後着  
※印段級誤記入

- ※規定部・自由部・研究部は、月別出品券を貼ったバーコード出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。
- ※特別研究部は所定の出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。
- ※半紙は縦使用に限る。
- ※落款(印のみも可)を入れる。

部門	用紙	内 容
前衛書	半 紙	創 作
現代詩文書	半 紙	創 作
実用書	左 記	掲載語句を書く

### ▲実用書部門・出品規定▼

○用紙 半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5cm)  
B5コピーユ用紙(26.16.5cm)  
も可。

- 課題掲載語句を書く。
- 小筆、筆ペン、サインペンも可。

- 研究部（掲載課題の臨書）
  - ・掲載部分以外の箇所は不可。
  - ・かな研究部門は料紙使用可。
  - ・料紙貼りつけ也可。

かな研究	部 門	用 紙	内 容
漢字研究	半 紙	内 容	
か な	内 容		

### ●特別研究部（左記のどれかに1点出品する）

- 1、締切日必着厳守
- 2、月別出品券を貼付していないバーコード出品券は認めない
- 3、月別出品券のコピーは不可
- 4、(1)初めて出品のときは「10級」と書く  
(2)「課題違反」・「落款なし」等の違反作品として氏名を掲載します。

\*△印作品審査後着  
※印段級誤記入  
\*段級欄に記入する数字は、級位は算用数字1、2、3…  
段位は漢数字 初、二、三…  
で書いてください。  
\*級位の方は、出品する月の本誌（最新号）で成績を調査確認の上、級位を記入してください。  
\*確認できないときは、現在級を書き

【未調査】と明記してください。

特 別 研 究 作 品			
小品の部		大作の部	
臨書	創 作	臨書	創 作
			○毎日展審査員・会員サイズ以内 (縦横自由)
		1. 小画仙半切以内、半切 $\frac{1}{2}$ 以上 2. 全紙 $\frac{1}{2}$ (約68×68cm)以内も可	漢字・かな・現代詩文書・前衛書 の各部門の創作作品競書
		3. 5. 4. 3. 2. 1. 136121176182242 cm cm cm cm cm cm (4.5尺) × × × × × × (2.2尺) 106121857961 cm cm cm cm cm cm (3.5尺) × × × × × × (2.6尺)	書道芸術掲載研究部 古典鑑賞(漢字研究)の臨書作品競書 古筆鑑賞(かな研究)の臨書作品競書 ※掲載以外の部分可
		4. その他の 毎日一般公募サイズ・全紙も可 (縦横自由)	漢字・かな・現代詩文書・篆刻(八 分角以上)・前衛書の各部門の創作 作品競書
			書道芸術掲載研究部 古典鑑賞(漢字研究)の臨書作品競書 古筆鑑賞(かな研究)の臨書作品競書 ※掲載以外の部分可

### ☆審査会員の部について

- ・「漢字部門初段以上」と「かな部門初段以上」に審査会員のみが出品できる部を設ける。
- ・バーコード出品券の段級欄に「審査会員」と記入する。
- ・通常の競書との重複出品は不可。

•かな、かな条幅部門は料紙使用可。

ペン字	かな条幅	漢字条幅	か な	漢 字	部 門
10 等 一 級	10 等 一 級	秀級以下	初段以上	秀級以下	段 級 位
サ イ ズ は が き	半 切	半 切	半 切	半 紙	用 紙
書 体 自 由	創 (書体自由) 作	創 (書体自由) 作	臨 書	創 (書体自由) 作	書体・内 容

予告

2025・5月号(769)の「古典鑑賞」・「古筆鑑賞」の課題

(6月15日締切)

古筆鑑賞

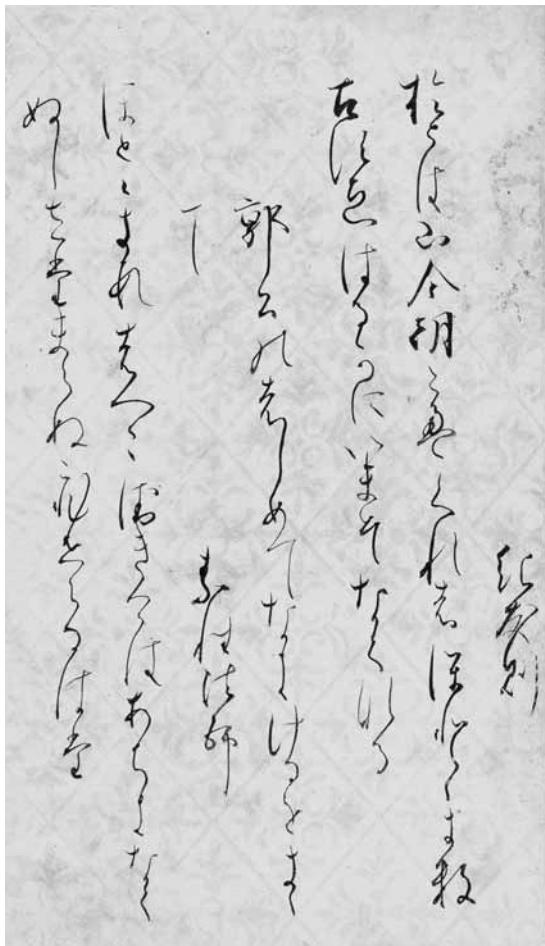
254

古典鑑賞

480

元永本古今集（伝源俊頼筆）②

真草千字文②（智永）



(掲載図版・70%に縮小)

おとは山今朝ごえくればほとゝぎす  
古須はるかにいまぞなくなる  
郭公のはじめてなきけるをきよ  
ほとゝぎすはつこゑきけばあぢきなく  
ぬしさだまらぬこひせらるはた

（よみ）

紀友則

素性法師

川流不息。淵澄取映。  
容止若思。言辭安定。



(掲載図版・70%に縮小)

# 特別昇段級試験

## 第二種(計2枚)

楷臨書 蘇慈墓誌銘(蘇慈墓誌銘)

楷臨書 皇帝誕碑(皇帝誕碑より)

行創作 卷土重來(杜牧)

行創作 踏天磨刀割紫雲(卷土重來)

行創作 踏天磨刀割紫雲(李賀)

一、しめきり日 4月15日(火)

春季作品募集は、左記の通りです。

漢字 一種、一種

漢字条幅 一種、二種、三種

かな条幅 一種、二種

ペン字 一種、二種

漢字、かな条幅、ペン字の三種は、

秋季募集となります。

二、応募資格

一人でいくつの部にも応募できる。

第一種 現段級が特級、10級、新規

第二種 現段級が初段、3級

第三種 (4~10級の方は受験できない)

現段級が準師範、秀級

(優級以下の方は受験できない)

第四種

第五種

第六種

第七種

第八種

第九種

第十種

第十一種

第十二種

第十三種

第十四種

第十五種

第十六種

第十七種

第十八種

第十九種

第二十種

第二十一種

第二十二種

第二十三種

第二十四種

かな部 半紙=たて長に使用

・料紙可、各臨書は料紙を裁断して貼り付け也可。

・かな部臨書・創作はともに落款は印のみも可。

・かな部の変更自由。

第一種 (1枚)

第二種 (1枚)

第三種 (1枚)

第四種 (1枚)

第五種 (1枚)

第六種 (1枚)

第七種 (1枚)

第八種 (1枚)

第九種 (1枚)

第十種 (1枚)

第十一種 (1枚)

第十二種 (1枚)

第十三種 (1枚)

第十四種 (1枚)

第十五種 (1枚)

第十六種 (1枚)

第十七種 (1枚)

第十八種 (1枚)

第十九種 (1枚)

第二十種 (1枚)

第二十一種 (1枚)

第二十二種 (1枚)

第二十三種 (1枚)

第二十四種 (1枚)

第二十五種 (1枚)

第二十六種 (1枚)

第二十七種 (1枚)

第二十八種 (1枚)

第二十九種 (1枚)

第三十種 (1枚)

第三十一種 (1枚)

第三十二種 (1枚)

第三十三種 (1枚)

第三十四種 (1枚)

第三十五種 (1枚)

第三十六種 (1枚)

第三十七種 (1枚)

第二種(計2枚)

## 第三種(楷・行・草計2枚)

楷臨書

争座位文稿

行創作

踏天磨刀割紫雲

孔硯寛頑何足云

圓毫促點聲諧新

草臨書

書譜

(書譜より14文字を臨書)

行臨書

争座位文稿

行創作

第二種(楷・行・草計2枚)

## 第三種(楷・行・草計2枚)

楷臨書

争座位文稿

行創作

踏天磨刀割紫雲

孔硯寛頑何足云

圓毫促點聲諧新

草臨書

書譜

(書譜より14文字を臨書)

行臨書

争座位文稿

行創作

第二種(楷・行・草計2枚)

## 第三種(楷・行・草計2枚)

楷臨書

争座位文稿

行創作

踏天磨刀割紫雲

孔硯寛頑何足云

圓毫促點聲諧新

草臨書

書譜

(書譜より14文字を臨書)

行臨書

争座位文稿

行創作

第二種(楷・行・草計2枚)

## 第三種(楷・行・草計2枚)

楷臨書

争座位文稿

行創作

踏天磨刀割紫雲

孔硯寛頑何足云

圓毫促點聲諧新

草臨書

書譜

(書譜より14文字を臨書)

行臨書

争座位文稿

行創作

第二種(楷・行・草計2枚)

## 第三種(楷・行・草計2枚)

楷臨書

争座位文稿

行創作

踏天磨刀割紫雲

孔硯寛頑何足云

圓毫促點聲諧新

草臨書

書譜

(書譜より14文字を臨書)

行臨書

争座位文稿

行創作

第二種(楷・行・草計2枚)

## 第三種(楷・行・草計2枚)

楷臨書

争座位文稿

行創作

踏天磨刀割紫雲

孔硯寛頑何足云

圓毫促點聲諧新

草臨書

書譜

(書譜より14文字を臨書)

行臨書

争座位文稿

行創作

争座位文稿

行創作

争座位文稿

# 766号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰

今月の注目作  
平塚由香

篆刻特選 成田能喜



「商石」

細部にまでよく原印を觀察し実によい作品です。さらに、ご精進を。

創作特選 橋本清麗



「百折不撓」

しっかりとした構成で「百折不撓」を彫り上げました。佳品。

◎篆刻部総評  
篆刻、創作ともに、秀逸作品が多く見られました。特に創作の中には一見して実に素晴らしい作品があり今後の作品創りに期待が持てます。(大峰評)



「商石」

今月の注目作  
庄司櫻空

特選		特選	
石心◎成田能喜	秀作(50賞)	やま◎橋本清麗	秀作(50賞)
大雲	驚山	白疏	平塚由香
蒼原	美梢	粹仙	藤井龍仙
橋雅	研治	生大	中畠義則
遊雲	佐藤朱葉	唯一	伊藤祥花
横山	須賀澤一起	唯一	新村翠芳
(選外1名氏名略)	(選外なし)	遊水	荒川裕泉
八街	香書	石心	赤星文庵
佐藤	遊雲	伊藤	祥花
朱葉	八街	生大	中畠
	入選(50賞)	唯一	義則
	入選(50賞)	伊藤	
		祥花	

逢沢唯一



「美晶」

藤井龍仙



「天地玄黄 宇宙洪荒  
日月盈昃 辰宿列張」

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は  
101-0031 東京都千代田区  
東神田1-16-7  
東神田プラザビル3階

公益財団法人書道芸術院

電話(03)3862-1954  
FAX(03)3862-1957

ご連絡等は  
月曜日～金曜日 10時～16時の間に  
お願いいたします。(土日・祝日は休み)

送 料

1か月の購読部数が

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円
10部以上	送料免除

令和七年三月二十五日印刷  
令和七年四月一日発行

定価

1部 七五〇円

編集兼  
発行人 下 谷 洋 子

印 刷 株式会社 リンクス  
アーツ処理

印 刷 小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財団法人書道芸術院

東京都千代田区東神田1-16-7  
東神田プラザビル3階

電話(03)3862-1954

FAX(03)3862-1957

振替 00150-4-1350558  
http://www.lms.co.jp/shogei/